

## 令和4年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和5年2月13日（月） 13：30～14：50

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：12名

比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、屋宜孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、山本真充(南部医療センター・こども医療センター小児専門看護師)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課 代理：稲田政博)、城間敏生(沖縄県教育庁保健体育課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：6名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS)、當山美奈子(琉大病院看護部)、當銘保則(琉大病院整形外科)、

陪 席 者：3名

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

比嘉 泉(琉大病院看護部)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター事務)

### 【報告事項】

#### 1. 令和4年度 第3回小児・AYA部会 議事要旨(12月15日)

浜田委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。

#### 2. 小児・AYA部会 委員一覧

浜田委員より資料2に基づき、委員について報告された。佐久川委員が休職、また、當山委員が異動となったため、看護師長は比嘉泉さんになったとの報告があった。

#### 3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

銘苺委員より、資料3に基づき、委員について報告された。

#### 4. 妊孕性温存療法について

##### (1) 妊孕性温存療法研修会について

資料4-(1)に基づき、銘苺委員が講師をつとめ、県内各施設で開催している妊孕性温存療法研修会の進捗状況が報告された。ハートライフと南部医療センター・こども医療センターから造血

器腫瘍の患者さんの紹介が増えているので、両院にはフィードバックの意味も込めて早めに研修会を開催できればとのことだった。

## (2) 県の助成について

資料 4-(2)に基づき、申請状況が報告された。

## (3) 琉大の実績について

資料 4-(3)に基づき、各施設から琉大にきた紹介件数やカウンセリング受診件数、妊孕性温存療法実施件数等の累計が報告された。小児・AYA 世代の希少がんの患者さんも多く紹介頂いているようだった。

## (4) がん治療施設について

資料 4-(4)のとおり、報告された。

### 【協議事項】

#### 1. 第 4 期沖縄県がん対策推進計画（小児・AYA 分野）について

増田委員より、部会上部組織の「沖縄県がん診療連携協議会」から、沖縄県に対して第 4 期沖縄県がん対策推進計画の協議会案を提案する予定であることと、現時点での協議会案の内容について説明された。その後、当日資料の Excel 表を使用しながら、小児・AYA 領域の個別施策に関する意見等がまとめられた。

今回は、教育、相談支援、家族・同胞支援制度について、協議会案の中から、特に残したほうが良いと思われる個別施策の剪定や、意見交換が行われた。

#### 小児(15歳以下)領域について

**中間アウトカム【学習の継続に関して、十分な支援ができています】（Excel 表 8 行目 参照）**  
施策案①、②、③、⑤は対応できていると思われるが、以下④⑥は不十分である。（新屋敷委員）

- ④原籍校と支援学校は、患者の入院および自宅療養時期の学習支援の向上を図る
- ⑥特別支援学校の転出入に伴う診断書発行費用等の助成制度を設立する

**中間アウトカム【小児がん患者および家族に対する、相談支援の拡充ができています】**  
**（Excel 表 7 行目 参照）**

現状は、①～③の内容のまま、追加や削除は不要とのこと。

- ①すべての小児および AYA 世代の患者や家族を、小児がんに対応可能ながん相談支援センターに全例紹介する
- ②小児がん、(他含めて)相談支援センターのネットワークを作る。
- ③小児および AYA 世代の患者や家族、それぞれのための患者サロンやピアサポートが組織的にできるようにする

**中間アウトカム【小児がん患者の家族、特に両親や同胞への支援制度が構築できています】**

### (Excel 表 10 行目 参照)

心理士も一緒になって、主治医から、きょうだい支援として説明をおこなっていること、また、拠点病院は治療開始前のがん相談支援センターへの訪問が義務になっていることから、①親、きょうだい支援、の相談支援する場を作る、は削除する。下記のような提案や情報提供があった。

- ・沖縄の子どものホスピス施設の計画があるようなので、それに関するサポートを行えないか。(屋良委員)
- ・立ち上げた患者会組織で、レスパイトケア施設と協議しながら、上記の子どもホスピスに関わる計画を進めているところである。(金城委員)
- ・個別施策には、在宅医療の推進することも必要である。(浜田委員)

### AYA 世代領域について

#### 中間アウトカム【学習の継続に関して、十分な支援ができています】(Excel 表 20 行目 参照)

①～⑥の対応が不十分である。また、卒業した生徒の状態の把握を行うことも、個別施策に新たに付けくわえる必要がある。(新屋敷委員)

①～⑥の内、特に重要な施策は以下であるとのこと。

- ①進学や就労に対して、適切なタイミングで相談を行う
- ③原籍校への復学をスムーズに行う
- ⑥特別支援学校の転出入に伴う診断書発行費用等の助成制度を設立する
- ⑦【追加】卒業した生徒の状態の把握を行う

#### 中間アウトカム【保護者ががんになったときの、子供に対する支援体制が構築できている】

#### (Excel 表 22 行目 参照)

一旦、増田委員の方で、施策案をまとめることとなった。委員からは以下のような案が出ていた。

- ・ Hope Tree から研修を受けるのはどうか。(浜田委員)
- ・ 何年後かを見据えるなら、沖縄に Hope Tree を立ち上げるのはどうか(有賀先生)

その他、妊孕性温存療法個別施策に関しては、増田委員と銘苅委員で調整、アピアランスケア施策に関しては、増田委員の方で書き込んだ後、意見を求める予定。

## 2. 次年度の部会活動計画について

本日頂いた第4期沖縄県がん対策推進計画に関する意見をまとめ、その中から、部会としてどこを重点的に行うかをピックアップすることとなった。

## 3. アピアランスモデル事業の公募について

資料7に基づき、増田委員より情報共有があった。応募条件としては資料P23、事業内容は資料P24の通りで、琉大も応募する予定なので、審査に通った際は改めて情報提供すること。

その他

- ・金城委員から、下記サイトの情報提供があった。

【公益財団法人 がんの子どもを守る会 小児・AYA 世代がん経験者みんなの健康管理サイト】  
[小児・AYA 世代がん経験者みんなの健康管理サイト・公益財団法人がんの子どもを守る会 \(ccaj-found.or.jp\)](http://ccaj-found.or.jp)

- ・新屋敷委員より、今年3月に退職ということで挨拶があった。

#### 4. 次回開催

6月開催予定で、事務局から日程調整を依頼することとなった。

以上